

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	92 美術展覧会運営経費(市民美術展覧会)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	目	07	文化振興費
		細目	128	文化振興費
行革大綱の重点事項番号		細目	51	美術展覧会運営経費
担当部課	コード	11300	担当者 氏名	西村 澄子
	名称	企画総務部企画課	連絡先	22 - 9621 (内線) 2116

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	絵画・写真・書道・彫塑工芸各部門(造形芸術)活動に取り組む人 ※対象件数
成果(どうする)	市民の美術への関心を高め、作品を発表する場を提供することにより、芸術文化の創造に積極的に取り組む姿勢を養う。
根拠法令・要綱等	
開始年度	平成 17 年度 関連事業
終了年度	平成 年度
H22 事業 内容	造形芸術等の有識者により運営委員会を組織し、年度内に3回運営委員会を開催、事業計画等を審議 過去同部門で3回市長賞を受賞した人は作品が審査されない無審査制度を導入 絵画・彫塑工芸・写真・書道の各部門の作品を募集 ポスターを制作し、自治会掲示板、市内文化祭等へ掲示 運営委員から推薦された審査委員による公開審査を実施 入賞・入選した作品、審査員・運営委員の作品、無審査の作品を展示 入賞者を対象に表彰式を開催
社会情勢 の変化等	平成20年度から彫塑と工芸部門を統合。 審査員は平成19年度までは15名だったが、平成20年度より13名に委嘱、さらに審査員謝礼を報酬に変更した。 平成24年度よりふれあいプラザが使用できないため、代替会場を検討する必要あり。

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
運営委員会	回	回	目標 2	目標 3	2	2
			実績 2	実績 3		
審査会	回	回	目標 1	目標 1	1	1
			実績 1	実績 1		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
出品者数	人	造形芸術活動に取り組む人を増やす	目標 180	目標 180	180	180	
			実績 153	実績 164			
来場者数	人	優れた作品を鑑賞する機会を提供し、造形芸術の向上を図る	目標 2250	目標 2250	2250	2250	
			実績 1798	実績 1840			

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	919	965	900	1,400
事業投入人件費(B)		0.3人	0.3人	0.3人	0.3人
フルコスト(A)+(B)		3,079	3,125	3,060	3,560

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○	市民の創作活動の発表の場を創り、優れた作品を鑑賞する機会を提供するとともに人材育成につながる事業であることから、市民文化の向上が期待できる。
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
有効性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○	造詣芸術分野において、市民の創作意欲が高まり活動内容が一層向上するとともに、造形芸術への関心が高まる。
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市民全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	○	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高		
効率性	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	○	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無		
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】		
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	22年度から市広報や行政チャンネル放送を活用して事業周知を行い、出品者の増加と出品者層の拡大に努める。
昨年度 の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 上野地区以外の出品者数が増え、市全域の事業として広がってきた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	藤山 善之
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 市民の造形芸術の創作意欲を高め、市民文化の向上に寄与する事業として継続する。
現時点における課題、その他	22年度から行っている幅広いPR活動で、旧上野市以外の地区からの出品が増えたが、10~40代での出品はまだ少ないので、若い世代への周知の必要がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	23年度からは高校への出品依頼文書は美術部顧問・書道部顧問へも通知する。さらに書道部門では「臨書作品も受け付ける」との一文をいれ、若い世代の出品意欲を高める。